

調査結果

課題

関係機関（保健所・生活困窮者自立相談支援機関など）

- Q2・相談体制
 - ・ひきこもり専門の相談窓口を設置していない部署でひきこもりに係る相談や問い合わせを受け対応しているところが多い…①
- Q10・当事者の年齢(再掲)
 - ・30歳代までの割合が多いが、40歳代超も一定数いる…①
- Q13・ひきこもりの状態にある期間が断続的なケース
 - ・当事者が一度社会参加をした後、再度ひきこもっているケースも一定数いる…②
- Q14・ひきこもりの状態となったきっかけ
 - ・ひきこもりの状態となったきっかけは、学校・大学等や家族、職場の人間関係、病気など、当事者によって様々…②
- Q16・相談までに要した期間
 - ・相談までに要した期間が1年以上が多い…③
- Q32・地域における連携ネットワークの状況
 - ・連携ネットワークは構築していないが、個別ケースにおいて日常的に連携を行っている部署が多い…①
- Q34・情報発信
 - ・各機関において、ホームページや自治体広報紙への掲載などの媒体を通じた情報発信を実施…③

地域包括支援センター

- Q3・ひきこもりの状態にある方を新たに把握する件数(再掲)
 - ・「年1～2件」、「年3～4件」、「年5～10件」、「月1件程度」を合わせて9割超…②、③
- Q5・ひきこもりの状態にある方を知ったときの対応
 - ・家族からの相談を聞くとともに、支援機関についての情報提供を行うことが多い…②
- Q7、Q8・若年層(中高年層)への支援において課題と感じていること(再掲)
 - ・当事者が相談を望んでいない、相談・支援に至るまで長期間経過しているケースが多く対応が難しい…②③

民生委員・児童委員

- Q2・ひきこもりの状態にある方を把握する機会
 - ・近隣住民からの情報提供が最も多い…③
- Q7、Q8・若年層(中高年層)への支援において課題と感じていること(再掲)
 - ・ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していないという回答が多い…②

① 切れ目のない支援

体制の整備

区市町村の支援体制整備
(地域におけるネットワーク構築)

② 一人ひとりの状態・

状況に応じた細やかな支援

人材育成・相談手法拡充

③ 都民及び関係者へ

の理解促進・効果的な普及啓発

広報・普及啓発

調査結果(自由記述)

課題

関係機関(保健所・生活困窮者自立相談支援機関など)

- Q27・若年層特有の問題
 - ・相談後のつなぎ先がない・・・①
 - ・相談・支援の知識・技能不足、体制の強化・・・②
 - ・ひきこもりの特性に関すること、当事者へのアプローチの方法など当事者との関わり方・・・②
- Q28・中高年層特有の問題
 - ・地域復帰のために連携ができる地域の支援団体が少ない・・・①
 - ・ひきこもりに対する担当部署が明確となっていない・・・①、③
- Q36・自由意見
 - ・ひきこもりの原因が多岐にわたり、支援策が明確でない・・・②
 - ・相談者の居住地域で気軽に相談ができる機会が必要・・・①
 - ・行政を中心に民間団体もネットワークを作り一体的に支援を行う必要がある・・・①

地域包括支援センター

- Q9・対応した事例
 - ・窓口(生活困窮者自立支援センター)を案内し、情報提供も繰り返し行っているが、しかるべきところになかなかつながっていかない・・・①、③
 - ・子供が30年近くひきこもっていると相談を受けたが、本人に会うこともできず、親の話を聞くだけの支援となっている②③
- Q10・自由意見
 - ・各市区町村にひきこもり支援を専門に行う相談窓口を設置してほしい・・・①、③
 - ・相談されたとしても、適当な相談窓口を紹介することができない・・・①、③
 - ・ワンストップで対応できる窓口がほしい・・・①、③

民生委員・児童委員

- Q9・対応した事例
 - ・祖母が孫2人の養育にあたっているが、内1人は18才を過ぎて学校との関わりが切れてから、何にも何処にも所属せず、祖母との会話もなく、支援の場にもつながらずに時が経過・・・①、③
 - ・母親から相談を受けたが、父親が子供のことを他人に相談することを家の恥と言い、次につながれなくなった・・・③
 - ・子供がひきこもり状態であることを親が隠すため、本人に会うことができないまま数年が経過している・・・③
 - ・ひきこもりの家族が支援を望むまでの時間が長かかってしまった。・・・①、②、③
 - ・学校からひきこもり状態での見守りを依頼されたが具体的に協力は何もできなかった。・・・②
- Q10・自由意見
 - ・ひきこもりの情報が伝わってこないし、把握するのは難しい・・・①、③
 - ・関係機関や近隣の住民との連携が必要・・・①
 - ・情報を民生委員とも共有できると家族に寄り添うことはできる・・・①
 - ・家族もひきこもりを外部に知られたくないと思っている。・・・③

①切れ目のない支援体制の整備
区市町村の支援体制整備
(地域におけるネットワーク構築)

②一人ひとりの状態・状況に応じた細やかな支援
人材育成・相談手法拡充

③都民及び関係者への理解促進・効果的な普及啓発
広報・普及啓発